

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	顎骨骨髄炎における経時的差分 CT の診断的有用性：MRI との後ろ向き比較検討		
1. 研究の目的と方法	顎骨骨髄炎とは、あごの骨に細菌などが感染して起こる炎症のことです。これまでは、MRI（体の内部を磁気で撮影する検査）の一種である「STIR法」が、病気の広がり調べるうえで最も役に立つ方法とされてきました。近年、「経時的差分 CT（Temporal Subtraction CT）」という新しい技術が注目されています。これは、時期の異なる2回分のCT画像（X線を使って体の断面を撮影する検査）をコンピューターで重ね合わせて比べることで、骨の変化した部分をわかりやすく浮き上がらせる方法です。すでに別の病気（骨への転移や真珠腫性中耳炎という耳の病気）での効果が確認されており、あごの骨の炎症にも役立てられるのではないかと期待されています。本研究では、当院であごの骨の炎症と診断され、経過観察の中で2回以上CTを受けられた方の画像データを使って、この経時的差分CTを作成します。そして、MRI（STIR法）の結果と比べることで、病変をどれだけ正確に検出・把握できるかを調べます。なお、すでに撮影済みの画像を使うだけですので、新たに検査や治療を行うことはありません。		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2027年12月31日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	2009年5月1日～2026年2月28日の期間に東京慈恵会医科大学附属病院において薬剤関連顎骨壊死を含む顎骨骨髄炎の臨床診断で経過観察された方で、同一撮影条件で2回以上のCT撮影が施行され、最近のCT撮影から6ヶ月以内にMRI（STIRシーケンスを含む）が施行された18歳以上の方。		
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用しません。	
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。	
	(3) 情報の種類	年齢、性別、治療歴（保存的治療/手術治療の有無と時期）、CT所見（骨髄変化の範囲、骨皮質破壊の有無・範囲）、経時的差分CT所見（変化部位・範囲）、MRI STIR所見（骨髄異常信号の範囲）、CT撮影間隔（日数）	
	(4) 情報の取得の方法	診療録や画像診断システムからデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 研究責任者または研究代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学放射線医学講座
		氏名	馬場 亮
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
	(3) 試料・情報の管理責任者	(1)の研究責任者と同じ	
(4) 共同で研究を実施する機関と	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。		

	その責任者	
6. 試料・情報を他機関とやり取りすることについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 情報の利用開始予定日：2026年6月頃～	
【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学放射線医学講座 研究責任者：馬場 亮(ばば あきら) 電話：03-3433-1111（内線：2040） 対応時間：平日 9:00 ～ 17:00	

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。